

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-52C	17-051	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Adherence to the World Cancer Research Fund/American Institute for Cancer Research recommendations and colorectal cancer risk. World Cancer Research Fund (WCRF) と American Institute for Cancer Research (AICR) の提言遵守と大腸がん発症リスク		
<b>執筆者</b>		
Turati F, Bravi F, Di Maso M, Bosetti C, Polesel J, Serraino D, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Eur J Cancer. 2017 Nov;85:86-94. doi: 10.1016/j.ejca.2017.08.015.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
症例対照研究、大腸がん、食事、栄養政策、予防		28892777
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 2007 年に World Cancer Research Fund (WCRF) と American Institute for Cancer Research (AICR) は、がん予防の提言を行った。本研究の目的は、WCRF/AICR のがん予防提言遵守と大腸がん発症との関連を評価することである。		
<b>方法：</b> イタリアで実施された 2 つの症例対照研究が統合され、大腸がん症例 2,419 名、対照例 4,723 名が対象となった。WCRF/AICR のがん予防提言の 7 項目について遵守スコアを定義し、対象者のスコアを算出した。予防提言の項目は 1) 肥満度管理をすること、2) 運動習慣があること、3) 高カロリーで栄養に乏しい食習慣を避けること、4) 植物性食物摂取の習慣があること、5) 赤身肉、加工肉の摂取を控えること、6) 飲酒を控えること、7) 減塩することであった。項目別遵守スコアは 0, 0.5, 1 の 3 段階で構成され、スコアが高いほど、提言に従う状態を示した。がん予防提言遵守と大腸がん発症の関連の解析には、多項ロジスティック回帰を用いた。		
<b>結果：</b> 合計スコアが 3.5 以下を対照とした場合、合計スコア 5 以上では、オッズ比 (95%信頼区間) は 0.67 (0.56-0.80) であった。また、合計スコアが高い場合、大腸がん発症リスクを低下させる傾向を示した (P < 0.001)。この結果は大腸がんの部位別にも同様であり、結腸がん、直腸がんではオッズ比は、それぞれ 0.67 であった。項目別遵守スコア 0 を対照として、スコア 1 と比較した際には、項目 1) では 0.82 (0.70 - 0.97)、2) は 0.86 (0.75 - 1.00)、3) は 0.70 (0.56 - 0.89) で、4) は 0.56 (0.42 - 0.76) 、6) は 0.87 (0.77 - 0.99)、7) は 0.63 (0.48-0.84) であった。		
<b>結論：</b> WCRF/AICR のがん予防提言の遵守は、大腸がん発症を低減させることが明らかになった。		